平成 16 年度日本痴呆ケア学会読売痴呆ケア賞「功労賞」

川　村　陽　一（かわむら　よういち）
社会福祉法人青山里会，医療法人社団主体会・理事長
1931（昭和 6）年 8 月 29 日生

【授賞理由】

川村氏は、痴呆という言葉が社会にまだ認識されていない 30 年前から，この問題に取り組み，1981 年には痴呆性高齢者専用の特別養護老人ホームを全国に先駆けて設置した．これ以降，痴呆性高齢者に対するケアのさまざまな取り組みが試みられ，現在に至っている．

この活動のなかで川村氏が唱える「痴呆性高齢者が地域のなかで安心して生活ができる環境を整える」という考えは，痴呆ケアのあり方に指針を与え，その理念に基づく実践は今日の地域ケアシステムの確立に果たした貢献に対し，本賞を授与するものである．

【略　歴】

1957 年 3 月	名古屋大学医学部卒業
1957 年 7 月 16 日	医師免許証取得
1957 年 7 月～1966 年 3 月	辰野病院厚生連菰野病院
1966 年 4 月～1969 年 7 月	厚生連松代病院（副院長）
1969 年 8 月～1971 年 7 月	岡山病院
1971 年 8 月～1993 年 3 月	川村病院
1993 年 4 月～現在	社会福祉法人青山里会，医療法人社団主体会理事長

【褒賞等】

1993 年 8 月 12 日	四日市市敬老功労表彰　市長感謝状
1999 年 10 月 13 日	三重県社会福祉協議会社　会福祉施設功労表彰
2000 年 10 月 6 日	全国老人保健施設協会　会長表彰
2001 年 2 月 6 日	三重県福祉関係功労表彰　知事特別表彰
2003 年 10 月 16 日	厚生労働大臣表彰（介護老人保健施設事業功労者）

【業績および功績】

1957 年に名古屋大学医学部卒業．勤務医を経て地元四日市で弟とともに医療法人を設立し，病院長に就任．外科医として従事したが医療のみでは高齢者や障害者の生活を支えていくことが困難であることを医療現場で実感し，介護の必要性を感じ，1974 年 6 月に三重県北勢区で第１番目の特別養護老人ホームである小山田特別養護老人ホームを四日市市山田町に開設した．

特別養護老人ホーム開設後は施設入所者の診療にも携わり，診療を通して入所者のほとんどが，何らかの疾患を複数もっていることに気づいた．高齢者や障害者が適切な医療を受けられる環境の必要性も感じ，小山田特別養護老人ホームに併設して老人病院を設置し，必要なときにすぐ医療が受けられる環境づくりを行った．その後，医療・保険・福祉のコンビネーションをシステム化することで，小山田地区に福祉の里ともいうべき総合福祉施設群を整備していく

こととなった．

また，特別養護老人ホームに入所している者には痴呆性高齢者も多くおり，日常生活のなかで他の方々とのトラブルが絶えず，それが痴呆性高齢者の生活上，大きなストレスや混乱を生じさせていることに着目し，1981 年に痴呆性高齢者専用の特別養護老人ホームを全国に先駆けて設置し，これ以降，当法人での痴呆性高齢者に対するケアのさまざまな取り組みが始まることとなる．第二小山田特別養護老人ホームでは，痴呆ケアについて，当初より専門医（精神科医）等の協力を得，試行錯誤を繰り返しながらも常に科学的な根拠に基づいたケアを行ってきた．これら第二小山田特別養護老人ホームでの取り組みは，その後特養での痴呆加算の導入など，制度に反映された．また，痴呆性高齢者専用の特別養護老人ホームである第二小山田特別養護老人ホームは 1984 年，三重県から「痴呆性老人処遇技術研修施設」に指定され，県下の各施設のケアワーカー等を対象に処遇技術向上のための実践的研修を実施した．その後，2000 年からは，この事業に取って代わり，痴呆介護実務者研修の委託を受けることとなった．

1983 年には「呆け老人相談所」開設し，24 時間 365 日電話による介護相談を受けられる体制づくりを行った．あわせて第二小山田特別養護老人ホームに短期入所専用居室を整備するなど在宅で暮らす痴呆性高齢者やその家族を支援するための介護サービスづくりも行った．

その後，1987 年には小山田老人保健施設をモデル事業で実施し，1989 年 5 月に新築増設時には痴呆性高齢者を対象とする痴呆加算棟を設け，痴呆性高齢者の自立支援・在宅復帰についても支援してきた．

2000 年 12 月には四日市市初のグループホームを 2 か所同時に設置し，痴呆性高齢者の地域での暮らしを支える拠点づくりを行ってきた．

また，これらの施設や介護サービスについては，単に設置するだけでなく，痴呆ケアのソフト面においても少人数グループでの痴呆ケアの取り組みを行い，ここに痴呆性高齢者の心理社会的な対応をもっぱらとする「コンタクトパーソン」の設置を行い，その効果測定も実施し，情緒的安定を図るうえで大きな効果があった．痴呆性高齢者のケアには本人の状態に加え，環境因子も大きな影響があることに着目し，個別に必要な環境を整えることの重要性について認識を促した．このことについては，日本老年社会科学学会などの学術集会でも報告し，その後の痴呆ケアのあり方やユニットケアなどのケア方法に大きな影響を与えることとなった．

日本痴呆ケア学会においては，2001 年 12 月に第 2 回日本痴呆ケア学会大会の大会長を務め，学際的な検討を深めるとともに，地元四日市で公開講座を開催し，住民の痴呆ケアへの関心を高めるきっかけづくりを行った．

また，「スヌーゼレンセラピー」や「アニマルアシステッドセラピー」など新しいアクティビティケアの取り組みをスタッフといっしょになって現在も進めており，日本痴呆ケア学会でもこれらのさまざまな取り組みについて研究報告をしているところである．

最近では痴呆性高齢者の地域ケアを進めるうえでの課題にも深い関心をもち，小規模多機能施設の設置やサテライト特養の設置に向けた取り組みを地域のなかで展開しており，痴呆性高齢者が住み慣れた地域のなかで暮らし続けることのできる環境の実現に向けた取り組みを地域住民やさまざまな関係機関とともに行っているところである．